

一連載 地図のお話— No. 179



「記念物めぐり—茨城県版—」(第8回)
つくば市の記念物巡り(その2)
—「平沢官衙遺跡」と「小田城址」を訪ねて—

日本ウオーキング協会 専門講師 堀野 正勝

記念物巡りの第8回は、つくば市の2回目として、国指定史跡「平沢官衙遺跡」と「小田城址」とその周辺を訪ねます。

平沢官衙遺跡 昭和55(1980)年12月4日 国史跡指定 重要文化財

「平沢官衙遺跡」は、つくば市平沢にある古代官衙の遺跡で、奈良時代・平安時代(8～11世紀造営)の常陸国筑波郡郡衙(役所)の一部で、その重要性から国の史跡となっています。

官衙には、郡衙政庁(役人が執務する場所)、正倉(租税として集められた稲などの保管倉庫)、館(宿泊・饗応の役割)、廚(食事を作る場所)等の建物があり、平沢官衙跡は、この中の正倉部分と言われています。

この遺跡には、掘建柱建物跡が55棟、礎石建物基壇跡4基、大溝跡や柵列跡、竪穴建物跡25軒が発掘されています。つくば市では、この重要な文化財を後世に伝え、活用するために、平成9年度(1997)から6年間をかけて往時の姿を復元しました、



平沢官衙遺跡と筑波山遠望

江戸の面影を残す「北条の街並み」と「北条大池」



北条大池より宝篋山(小田山)を望む

平沢官衙の西方には、江戸の面影を残す「北条の街並み」が残っています。北条は、筑波山参詣道であるつくば道の門前町として、また、筑波山麓地域の商業の中心地として繁栄してきました。

北条は、縄文時代から豊かな自然に囲まれ、それぞれの時代に様々な営み、歴史が生まれ、脈々と今に続いています。北条は、建物や風景に、様々な時代の面影を残しています。

また、街並みの東、平沢官衙遺跡の手前には、櫻の名所と知られる北条大池があり、花見の時期には、沢山の観光客でにぎわいます。

小田城址 昭和10(1935)年6月7日 国指定史跡 重要文化財

小田城は、宝篋山(小田山)の南にある小田氏の築いた平城で、延元3年・歴応元年(1388)10月、北畠親房の入城により、一時関東地方における南朝方の中心となりました。特に親房が小田城にいる時に「神皇正統記」を著し、南朝方の正統性を主張したことで有名です。

本丸跡は、周囲に土塁跡が残り、濠に囲まれています。それらの外側にもさらに曲輪・堀跡がめぐっています。堀跡は水田などになっているものの、往時の規模をしのばせています。

かつては、筑波鉄道の線路が本丸の南東部から北西隅にかけて斜めに横切っていましたが、筑波鉄道廃線後に路線の跡地をりんりんロードとして整備する際、城跡を迂回するようコース変更し、路線跡を切通として残し、現在は土塁の断面展示を行っています。



小田城址と宝篋山(小田山)遠望

現在残る小田城址は、鎌倉時代以来何度も作り替えられ、廃城後に土塁を崩して濠を埋めるなどの改変が行われていますが、戦国時代末期の遺構で、方形の曲輪(本丸)を中心にほぼ三重の堀と大小の曲輪が取り囲む構造で、史跡指定範囲でも南北550m、東西450mの規模があります。

小田城歴史の広場には、案内所があり、小田氏十五代、四百年の物語を立体的な歴史絵巻風に再現しています。発掘調査の成果や体験型展示などを通して、小田城の歴史を観ることができます。



石造五輪塔遠望

